

牧師室から (2022.3. 20)

明日はメグの避妊手術の日(3月17日)だ。にもかかわらず、彼女は何もわからずに、黙々と夕飯を食べ、散歩を楽しんでいる。迫りくる試練など分からずにいるのが健気だ。犬の避妊手術は、高い比率の乳・子宮がん発生を避けるためであるが、また別の面で、飼い易くするという人間の都合によるものでもある。メグには犬のメスとしての生き様を否定する手段であることに心が痛む。彼女の天真爛漫な振る舞いが、余計に私どもの心に罪悪感を生じさせる。神様はこの世のものをすべて治めるようにその権限を人間に委ねている。しかしすべてが人間の都合のよいようにすべきではないであろう。それぞれの生物に与えられた最善の生き方や尊厳というものがあるべきだと思う。メグの円らなアーモンドアイと目線が合うとどこことなく心が痛む。人間においてもそうであるが、犬にとっても幸福な生き方というのはどのようなものであるかと考えさせられた。造られた万物が、最善の在り方ができるように人間が考え、行えるように神様から委ねられていることを、改めて実感した。

「神は言われた。『我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うすべてのものを支配させよう。』」(創世記 1:26)

(鈴木淳一牧師)